



Dr. 健康コラム

## 子宮頸がん予防ワクチンについて

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

### ○子宮頸がん予防ワクチン接種の実際

子宮頸がん予防には、ヒトパピローマウイルスワクチン(HPVワクチン)接種と子宮頸がん検診のどちらも大切です。小学校6年生から高校1年生相当の対象年齢の方が公費で受けられるHPVワクチンは、2価、4価、9価の3種類があります。9価ワクチンでは、子宮頸がんの原因の80~90%を占める7種類のHPVを含むHPV感染を防ぐことができます(6、11型は尖圭コンジローマの原因ウイルス)。

価数/ワクチン名	予防するHPV型	接種スケジュール
2価(2009年~) サーバリックス	16、18	1回目 2回目 3回目 0か月 1か月 6か月
4価(2011年~) ガーダシル	6、11、16、18	1回目 2回目 3回目 0か月 2か月 6か月
9価(2023年~) シルガード9	6、11、16、18、31、 33、45、52、58	★初回が15歳未満： 1回目 2回目 0か月 6か月
		★初回が15歳以上： 1回目 2回目 3回目 0か月 2か月 6か月

9価ワクチンを1回目に受ける年齢により2回または3回接種、それ以外のワクチンでは3回接種となっています。9~14歳女性にシルガード9を2回接種した場合の効果は、3回接種に比して劣っていないとの臨床試験結果から、15歳になるまでに開始した時には2回で接種完了となります。2価ワクチン、または4価ワクチンを既定の3回終了していない方は、原則として同じ種類のワクチンを接種することが推奨されますが、医師と相談のうえ、途中から9価ワクチンに変更することも可能です。

### ○HPVワクチンの副反応について

HPVワクチンの副反応は、筋肉注射であることもあり接種部位の痛みや腫れが高頻度で起こります。9価ワクチンでの頭痛、発熱、吐き気、めまいなどの全身性副反応は4価ワクチンと同程度とされています。まれですが、アナフィラキシーなどのアレルギー症状、ギランバレー症候群などの神経症状も報告されています。

2013年定期接種となった2か月後にHPVワクチンの積極的接種勧奨が差し控えられたのは、接種後に失神や機能性身体症状(痛みなど何らかの症状があるにもかかわらず、血液検査や画像検査で症状を説明できるような明らかな異常が見当たらず原因が特定できない状態)が多く観察されたためでした。標準的な対象者である12歳ごろの女子では起立性調節障害が起こりやすく心身の反応が生じやすいのもうなずけます。

名古屋スタディと呼ばれる7万人を対象とした大規模疫学研究があり、疼痛や運動障害などを中心とする多様な24の症状についてアンケート調査をおこない、解析できた3万人のデータから、HPVワクチンを接種した人と接種していない人では差が認められず、一方接種しなかった人の中にも同様な症状を呈した人がおり、因果関係は示されませんでした。

厚生労働省の審議会でも科学的な検証によりワクチンの有効性が安全性の懸念を上回るものであると結論付けられ、2022年4月の接種勧奨再開に至っています。

厚生労働省はHPVワクチンと因果関係が不明にせよ、接種後に生じた症状に苦しんでいる方々へ、救済にかかる速やかな審査、医療的・生活面での支援強化、調査研究推進などに注力し寄り添った支援を進めていくとしています。診療・相談体制の強化として、各都道府県に多様な症状に対応できる協力医療機関が1機関以上整備されました。茨城県では、筑波大学附属病院と水戸赤十字病院を拠点として地域の医療機関との連携を図る計画です。

### ○キャッチアップ接種について

誕生日が1997(平成9)年4月2日から2007(平成19)年4月1日までの女性でHPVワクチンの定期接種の対象年齢の間に接種を逃した方は、希望すれば2025(令和7)年3月までの間に公費で接種を受けることができます。

